



三瀨保育園 園だより

March 2021



教育者は他のどのような職業人よりも遠い将来を見定めることにかかわっている (デューイ/USA)

未来は緩やかにやってきては過ぎていくと信じていて、まさか我々の日常が、急激に、劇的に変わるという発想は今まであまりなかったかもしれません。しかし、この一年、多くのことを突き付けられました。まだ先だと思っていた近未来が急激にやってきたような気さえます。私達人間はそれにハッとさせられ、考えを巡らし、工夫し、そして価値観を新たにさせられました。

さて、ここ5年前位から、VUCAという言葉が出てきました。。近い将来の話として、先行き不透明で予測困難な時代がやって来るぞ！という意味でビジネス界で使われていた言葉です。技術進歩や世の中の変化のスピードが速くなり、自分達の当り前の価値観やスタンダードが通用しなくなる。そんな時、そこに柔軟に対応するために、考えて、実行する。そんなことが求められるのではないかと。

しかし近い将来の“VUCA”状態は、今まさにここにあると実感せざるを得ない一年でした。

今年、世界中に新型コロナウイルスに関する多くの情報があふれました。不安に襲われる中、自分自身に何ができるだろう?と自ら考えて行動をとることが必要な時間。誰かのことを思い、自分が行動することが何かにつながる事。そして、限られた中でも楽しさややりがいを求めて自分たちなりに工夫すること。きっと子ども達はそういう経験を大人達としてきたのではないかと思います。

3年前、日本の保育～大学の教育界には大転換期がありました。よく聞く“アクティブラーニング”というワードがその転換を表すのに一番シンプルかもしれません。

保育界はそれを“**主体的で対話的で深い学び**”と表現しています。自分が興味関心があるものに対して、自らが疑問を抱いたり、試したり、工夫したり、失敗したり、少しうまくいったりする中で、実感しながら学びを得るというものです。それは遊びの中で友達等と関わりることや、大人が一見“この子何を考えているんだろう?”という瞬間にあったりするものです。“大人が教え込んだ中よりも、子どもが創意工夫したもののほうが成長があると思わない?”とモンテッソーリ教育・松浦公紀さん。ハイハイの赤ちゃんが立とうとするのは、親が“立ったらおいしいおやつをあげる”とご褒美を見せるわけでもなく、“立ちなさい!立たないとおかしい”と強制するわけでもなく、そこには赤ちゃん本人の中に“立つのいいな、私もやってみる!”という内側からの意欲が人を成長させているのだろう、と。

私達保育士も教育の転換期を過ぎた今、多くのことを学び、悩みながら保育を重ねる日々です。私達の既存の価値観で“こうしていたら困らない”“これは将来の役に立つからやりなさい!”という事が、実は無責任なこともあるのではないかと日々自問自答しながら。《**自分で考えて、ベターな判断ができ、実行できる力を持ち合わせる**》ことを目の前の子ども達の将来にイメージし、日常の延長線上とつなげて保育を行っていかれたらと思います。

今年一年、多くのことにご配慮いただきありがとうございます。4月からの新しい日々も、子ども・スタッフ、一人一人が充実したハッピーな時間を過ごせる保育園でありたいと思います。 國友 裕子

クラス目標 ～1か月大切にしたいこと～

たんぽぽ組

自分がしたいことを保育者との関わり合いの中で十分に経験し満足感を味わう。
保育者を仲立ちにして周りの子や異年齢の子ども達との触れ合いを楽しむ。

もも組

散歩に出かけ、季節の移り変わりを五感で感じる。
お友達との関わりの中で言葉のやり取りや一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

ばら組

簡単な身の回りのことを自分でい、一日の流れを理解していく。
春の訪れを感じながら伸び伸びと体を動かして遊ぶ。

うめ組

進級に期待を持ち、できることを意欲的に行おうとする。
身近な自然から春の訪れや季節の変化を感じる。

すみれ組

自分の意見や考えを友達に伝えながら一緒に色々な遊びを楽しむ。
年長組と関わりながら、進級することに期待を持ち楽しみにする。

ゆり組

就学への期待を持ち、自信をもって意欲的に活動する。
保育園での活動を振り返り、感謝の気持ちを持つ。

3月の行事予定



4日(木)	お弁当の日	25日(木)	卒園式準備
10日(水)	YYおさらい会	26日(金)	卒園式
12日(金)	避難訓練	29日(月)	修了式
16日(火)	身体測定	30日(火)	自由保育
17日(水)	お誕生会 制服渡し	31日(水)	自由保育
22日(月)	お別れ会		

- ◆お弁当の日◆ うめ・すみれ・ゆり組の子ども達は、ゆうゆう公園へ遠足に行きます。
- ◆制服渡し◆ 17日(水) 16:30～19:00の間に取りにお越しください。
- ◆卒園式◆ 当日はすみれ組・ゆり組の子ども達が参加します。
- ◆自由保育◆ 既に出欠を確認させていただいております。

先月に続き、年長の担任がこの一年を子ども達と過ごし感じたことなどを振り返ります。

予想もしなかったコロナ禍に“年長”という就学前の大切な一年を過ごすことになった今年のゆり組の子ども達。

日常や行事なども今まで通りにはいかなかったのですが、そんな中でも多くのことを経験することが出来ました。

夏に取り組んだ“こどもマルシェ”では自分たちで作った商品を売る活動をしました。販売するまでにエコについて考えたことがきっかけでゴミの分別に意識が向きました。“紙”か“プラスチック”か。たった二つの分別ですが、子ども達はごみを手にすると“これはプラだ！”と言いながらプラスチック専用のごみ箱に一直線でした。久留米市の環境教育“エコスタート”でも、エコについて学びました。今はまだ難しい内容なども含まれていましたが、これからの日々で“エコ”について考えた時、保育園で触れたことなどを少しでも思い出し、自分たちに何ができるか？を実践してくれたらいいなと思います。

友人に対して優しく思いやりもあります。つい先日の出来事。クラスで跳び箱の練習をしている時間に、失敗が続いている子に対して、周りの子ども達が“頑張れ！！”“今のいい感じだったよ！”“あ～！惜しかったね！次！次！！”と言葉があふれてきました。一人二人が言い始めると、皆で大合唱の応援。いつからでしょうか？大人は“応援してね”という言葉は一切伝えていません。それでも自然と友達を見守り、応援する気持ちが言葉として生まれています。

泣いている子に“どうした？”とずっと手を差し伸べる姿もあり、心の成長も嬉しく感じました。

私がこの子ども達を担任したのは2年前からです。この二年間、一日一日をしっかりと子ども達と向き合って過ごし、何事にも代えられない大きな絆を生み出せることが出来たと思います。

どこか友達関係を思わせるような壁のない関係性。いろいろな場面を思い返しては“ふふふ”と心が温まる私の大切な宝物です。

いつの間にか3月になり、あっという間に卒園の日を迎えようとしています。送り出す立場にありながら離れたくないのが本音……。そんな気持ちをぐっところえ、笑顔で送り出せるように残りの日々を大切に過ごし沢山の楽しい思い出を作っていきたいと思います。この子達ならどの小学校に送り出しても大丈夫！そんな強く大きく、そして人に優しい子ども達に育てられました。

保護者の皆様、多くのご協力を頂きありがとうございます。子ども達のことはもちろん、わたしたち職員に対しても多くの励ましの言葉、そしてサポートを頂き感謝の気持ちばかりです。

子ども達のことと保護者の皆様のこととずっとずっと大好きです。